

夜間学校ニユース

1988年5月13日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなでつくろう

みんなの 会館

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

1 対え

やはり釜の主人公は

我々労働者だ

従来、あいりん地区の人口は、推定約四万人、日雇労働者その他の住民とは半々の割合と言われて来たが、どうやら東進と大きく離れた数字が長いこと一人歩きしていたようだ。

三月二三日の毎日新聞に

よるとー

「(西成)署は、昨秋から地区内を初めて戸別訪問調査。その結果、自由労働者

は一万九千人で、六十年より約二千人増。しかし、地元住民は一万八百人で、六十、六十一年に同署が白書で公表していた約二万一千人、約二万人のほぼ半分だった。

五月十二日読売新聞は、

「(西成)署は、期間雇用で

各地に出ている人を含めると二万三千人以上の労働者が同地区を拠点に生活して

いると推定している。

ようするに、地区人口の

多きが労働者で、残り多きが

老人や勤め人ということだ。

萩之茶屋では九割が労働

者というのは、ざい分前が

らわかりきったことが今あ

らためて確認された。

大阪市・大阪府はこの数

字をどう受けとめるのかな。

あいりんから

漢字まで

夜間学校識字学級のこと

を、文字を買えたがって

る仲間に伝えてください。

現在、生徒一名、あと二三名

仲間の死

本籍、住所不詳、氏名自

称三宅章太郎、住居西成区

萩之茶屋3-9-17、年齢

39歳の男、遺留金品現金

右の者は、昭和61年1月

20日午前9時ごろ、西成区

萩之茶屋スー7-23簡宿ホ

ワイトハウス中庭内にて発

見されたもので、同日午前

8時ごろ(推定)同所にお

いて頭蓋内出血及び脳挫傷

により死亡したものと思わ

れる。

身柄引取人不明につき、

風破斎場にて火葬に付した

ので心当たりの者は申し出てくだ

やっぱりアブしはやっぱりやってきました……

連休が明けても、やっぱり例年通り仕事は減ったまま。仕事のないことに慣れて（アブ）、飯場に入った人も多いことでしょう。世間では大型連休とかで、「民族の大移動」が海外にまで拡大したというのに……先々の見通しはどんなものでしょうか。

「仕事が減ってるためか、ドヤ代を百円、二百円とさげるところがあるらしいない」

「客の取り合いもあるやろうしドヤの代わりもかなり進んでい

るらしいで」

「ドヤで働いている人、たとえ

ば帳場とかさうじの人の人件費は何人ともって同じだから」

「金融屋のツケ馬料もさがって

るで」

「それにしても仕事はないない」

「ワシも今は飯場に入ってるけ

ど、毎日仕事というわけにはい

かん、手帳持ちは優先的に休ま

せるとかして、ヤリクリや」

「現金は願掛けやし、困るのは

年寄りやない」

「年寄りが認定をとるとい

うのがむつかしなるわな」

「手帳持ちは三、四千人ほど圧

縮めてそれで認定を二億五千万

円から三億円くらいはうかして

それで、老人ホームとか新今宮

小中の跡地に保護施設を作ろう

とかいう考えがあるらしいで」

「まあ、混線してるけど、今すぐ

の問題には役にたたんぞ」

「新今宮小中の跡地にしても年

度がかわって行政の方の担当者

もかわった。それで今は足踏み

状態やし」

「それはそうと、この前TVを

見てたら新空港の工事をうつし

てたけど機械が動いてるぼっか

リで人は全然おらんかった」

「まだ海を埋めたてるところ

やからな、やっぱり陸地が見え

てこんと話にならんぞ」

「ゴミを埋めてるとい

うのはホシマカ」

「いや、それは大事や、東京で

はそういうところもあるけど、新

空港はせんで、鶴見新山というの

が大阪市内にあるけど、できて

からだいぶたつのに今でも早に

数センチは沈下してる。落ちつ

くの三〇年はかかるぞ」

「コンクリをおさえるのもロボ

ットがやるのかいうぞ」

「竹中が開発したらしいな、金

の問題や、ロボットより外国人

を使うということになるのどち

やうか」

「スウェーデンではロボットを

やめて人間が仕事をやるように

もどしたという自動車会社もあ

るのにな」

「日本はまだまだそこま

でいかんか」

「やっぱり新空港は二期工事に

入るまでは仕事はどんやろう、

関西新空港自体は問題やけど、

仕事はなあ……」

「アブレはアブレやけど、何か

あると手帳とりあげるとい

う職員の職員もいやなもんやない

」

「十六番いうとみんなビビル

」

「警察よりこわい、警察やった

ら食・住は保障しよるけど、こ

うちはその反対やし」

「あまんなまにまじってるのが一番

強い、同じ労働者でも組織の有

無で全然ちがうな」